

■過去の展示歴－2011年

05/23～06/24 「近世文学資料展」

07/01～07/30 「地球温暖化時代におけるヒートアイランド現象」

10/01～10/30 「伊能図でみる東日本－東北地方を中心に－」

11/14～12/20 「Discovery！文理学部 ～向き合って、その先へ～」

「近世文学資料展」

会期: 5月23日(月)～6月24日(金)

【(展示期間: 前期5/23(月)～6/3(金)、後期6/7(火)～6/24(金)】

※日本大学総合学術情報センター所蔵資料は、後期から展示致します。ご注意ください。

開館時間: 10時～17時

休館日: 日曜・祝日、および6月4日(土)、6日(月)も展示替えのため休館。

ただし、6月11日(土)と12日(日)は開館致します(開館10時～17時)。

展示会概要:

日本大学所蔵の貴重資料のうち、近世期に成立、刊行された古典籍を選び、展示紹介いたします。

日本大学総合学術情報センター所蔵の貴重資料の中からは、喜多川歌麿の狂歌絵本雪月花三部作の『狂月坊』、『銀世界』、『普賢像』や、大田南畝の自筆本などを出陳、また、日本大学文理学部 所蔵の古典籍の中からは、和歌・俳諧、仮名草子から草双紙まで、多様なジャンルの作品を選び、概観できるようにしました。近世期に多くの読者を獲得した『徒然草』の写本・版本、さらには絵本類 など、その享受の様相の一端についても知ることができます。

本展をとおして、それぞれに見どころのある近世文学資料の世界をお楽しみいただければ幸いです。

主な展示資料(* 付は、総合学術情報センター所蔵。後期より展示。無印は、文理学部所蔵)

『竹斎』富山道治著 江戸初期写 奈良絵本・仮名草子

『大石兵六夢物語』寛政6年(1794)5月写

『錦百人一首あつま織』勝川春章画 安永4年(1775)刊 鷹金屋清吉・鷹金屋義助版

『徒然草』西川祐信画 元文2年(1737)刊 菊屋喜兵衛版

『絵本双乃岡』西川祐信画 刊年不明 菊屋喜兵衛版

『女中風俗玉鏡』江嶋其磧著 西川祐信画 天明2年(1782)刊 菊屋喜兵衛版

『熊野の本地』江戸初期写 奈良絵本・御伽草子

『竹斎』富山道治著 天和3年(1683)刊 鱗形屋版

『松楼私語』大田南畝自筆本 天明7年(1787)成稿 文化9年(1812)山東京伝識語

『歌曲時習考』浅野高造編 菊崎検校校訂 岡田玉山画 文政元年(1818)刊 檜皮屋友七他版

* 『吉原傾城新美人合自筆鏡』北尾政演画 天明4年(1784)序刊 蔦屋重三郎版

* 『銀世界』宿屋飯盛撰 喜多川歌麿画 寛政2年(1790)序刊 蔦屋重三郎版

* 『普賢像』頭光撰 喜多川歌麿画 寛政2年(1790)序刊 蔦屋重三郎版

* 『狂月坊』紀定丸撰 喜多川歌麿画 寛政元年(1789)刊 蔦屋重三郎版

* 『浮世絵本 鶴の嘴』奥村政信画 山崎金兵衛版

* 『絵本千代松』鈴木春信画 明和4年(1767)刊 山崎金兵衛版

* 『彩画職人部類』橘岷江画 明和7年(1770)刊

* 『絵本紅葉橋』金鶏撰 勝川春潮画 蔦屋重三郎版

* 『南畝集』大田南畝自筆稿本

* 『調布日記』大田南畝自筆本

* 『江戸名所図会 校正刷本』斎藤月岑・長谷川雪旦自筆書き入れ

主催: 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力: 日本大学文理学部図書館・日本大学国文学会・日本大学総合学術情報センター

展示会「地球温暖化時代におけるヒートアイランド現象」

会期：7月1日(金)～7月30日(土)

開館時間：平日 10 時～17 時、土曜 10 時～13 時

休館日：日曜

※ただし、7月3日(日)、7月16日(土)、7月17日(日)、7月18日(祝)は10時～17時まで開館します。

展示会概要：

昨年の夏のモーレツな猛暑と豪雨は記憶に新しいところです。35℃以上の猛暑日や25℃以上の熱帯夜は明らかに増加しています。地球温暖化が進む今、都市特有のヒートアイランド現象とは何かを知り、私たちに今何ができるかを考えましょう。ヒートアイランド現象の発生仕方・広がり・推移、湧水や地下水の役割、地中熱利用、氷蓄熱などの対策、今後のエネルギー利用、CO2削減なども含めて、わかりやすく展示や実演で示します。

展示内容：

1. 地球温暖化

[地球温暖化の実態とその原因、気候モデルによる地球温暖化の予測、将来のエネルギー技術とCO2削減、関連する様々な技術]

2. ヒートアイランド現象の実態

[人工衛星で見る過去～現在の推移・世界の都市との比較・季節や昼 夜の違い、東京や文理学部における熱分布の実態、身近な省エネ対策の効果：日向と日蔭・打ち水・遮光フィルム・衣服・日傘など、東京 23 区のヒートアイランドの時間変化シミュレーション動画]

3. ヒートアイランドに関わる猛暑と豪雨のメカニズム

[熊谷・多治見で 40.9℃を記録した日を例にそのメカニズム、「環八雲」の発生要因と関連豪雨、2010 年首都圏豪雨の発生プロセス]

4. ヒートアイランドと水環境

[都市の気温調節機能としての水と緑、都内で出会える湧水、地下水環境の変化、近年の湧水温の上昇、ヒートアイランド対策としての地下水の有効利用、地下水の打ち水の効果]

5. ヒートアイランド対策

[新しいヒートアイランド対策としての地中熱利用の原理や課題、文理学部が導入している夜間電力を利用する氷蓄熱システムの仕組み、人力発電装置(設置型、移動型)の実演]

▲[ページトップへ](#)

展示会:『伊能図でみる東日本—東北地方を中心に—』

会 期 : 平成23年10月1日(土)~10月30日(日)

開館時間 : 平日10時 ~17時(土曜13時まで)

休 館 日 : 日曜・祝日・10月4日(火)

※ただし、10月29日(土)・30日(日)は大学祭の為、10時から17時まで開館
します。

入 場 料 : 無料

展示会の概要:

伊能忠敬は、1800(寛政 12)年から 1816(文化 13)年にかけて全国を実地測量し、精度の高い日本地図を作製しました。

その誤差は、緯度1度の長さにして 0.2%にすぎず、約半世紀を経た後も、伊能図を基にして、1861(文久元)年に日本沿岸測量を実施した英国海軍が海図を刊行し、また、明治政府が輯製 20 万分の 1 図や海図等を作成するほど精緻なものでした。

平成 22 年 6 月、伊能忠敬記念館所蔵の伊能図は、伊能忠敬関係資料として国宝に指定されました。その中には、以前「伊能図の世界」展(平成 16 年日本大学文理学部にて開催)の出陳に際して、本学部が修復した星図も含んでいます。本展では、国土地理院と本学部が所蔵する伊能図(レプリカ)の中から、東北地方を中心にした東日本の大図・中図・小図・江戸府内図、及び当時用いられていた測量器具等(レプリカ)を展示し、伊能図の魅力を紹介します。

また、伊能図とあわせ、忠敬が海上からの測量を余儀なくされた三陸海岸等の難所については、場所を精選し、東日本大震災直後の沿岸を撮影した航空写真等と比較展示します。

最後になりましたが、このたびの東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、皆さまの安全と一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

主な展示資料:

伊 能 図 小図、中図、大図、江戸府内図

測量器具等 彎窠羅鍼(わんからしん)・量程車(りょうていしゃ)・小象限儀(しょうしょうげんぎ)
中象限儀(ちゅうしょうげんぎ)・半円方位盤(はんえんほういばん)など

記 録 測量日記

※測量器具等・記録の原本は伊能忠敬記念館所蔵。

主催: 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

後援: 国土交通省国土地理院・世田谷区・世田谷区教育委員会

協力: 財団法人日本地図センター・伊能忠敬記念館

▲[ページトップへ](#)

展示会：日本大学文理学部 110 周年記念展示会

『Discovery！文理学部～向き合って、その先へ～』

会 期：平成23年11月14日(月)～12月20日(火)

開館時間：平日10時～17時(土曜13時まで)

休館日：日曜・祝日

入場料：無料

展示会の概要：

日本大学は、1889(明治 22)年に日本法律学校として誕生し、わが国の近代国家の成立に向け法典編纂に尽力した時の司法大臣・山田顕義を学祖とします。その後、1903(明治 36)年に「日本大学」と改称され、現在に至っています。

文理学部の歴史は、1901(明治 34)年、この日本法律学校に文理学部の前身である高等師範科が設けられたところより始まります。爾来、高等師範科は改組などの変遷とともに、幾多の星霜を経て、本年で1世紀余の 110 年を迎えることとなりました。1958(昭和 33)年に文理学部として改組され、現在は人文系・社会系・理学系の3系統 17 学科から構成される複合学部として発展を続けています。

本展では、本学部のこのような多年の歴史的経緯に鑑み、過去を知り、現在に学び、そして未来に歩みを進める文理学部から「何か」を発見していただけたら幸いです。

講演会：「日本大学及び文理学部の歴史」

講師：高橋秀典氏(日本大学広報部大学史編纂課)

日時：12月10日(土)14時30分～16時

場所：日本大学文理学部 3号館2階 3205教室

※参加費・事前申し込み不要。どなたでもお気軽にご参加下さい。

主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

後援：日本大学広報部大学史編纂課

[▲ページトップへ](#)